

平成28年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（奈良）

富北コミュニティ・スクール

奈良市立富雄北小学校
児童数641名 25学級
教職員40名
創立138年目

平成23年3月
コミュニティ・スクール指定
今年で6年目



発表者 校長 田中 恵治
CS委員 竹下 栄子

奈良市の西部住宅地に立地



富雄北
小学校

開発された住宅地



立ち並ぶマンション



里山のある地域



富雄北小学校 学校教育目標

豊かな心と自ら学びやりぬく力をもつ児童の育成
～富雄を誇りに思い、
富雄で学んで良かったと思える人づくりをめざして～

富雄北小学校 めざす子ども像

知 確かな学力と正しい判断力を持つ子
徳 思いやりのある子
体 命を大切にすべくたくましい子
夢 なかまとともに育ち、夢を語れる子
誇 富雄を誇らしく語れる子

富雄北小学校学校運営協議会 導入の経過

H16. 11 富雄北小1女児誘拐殺害事件

H16.12. 6～ 集団登下校の開始

H17～ PTA集団登下校推進保護者会

H18～ ブロック会議 安全会議

持続可能な活動体制を模索

学校	子どもたちのかけがえのない命を守る
地域	子どもの安全が守れるまちづくり

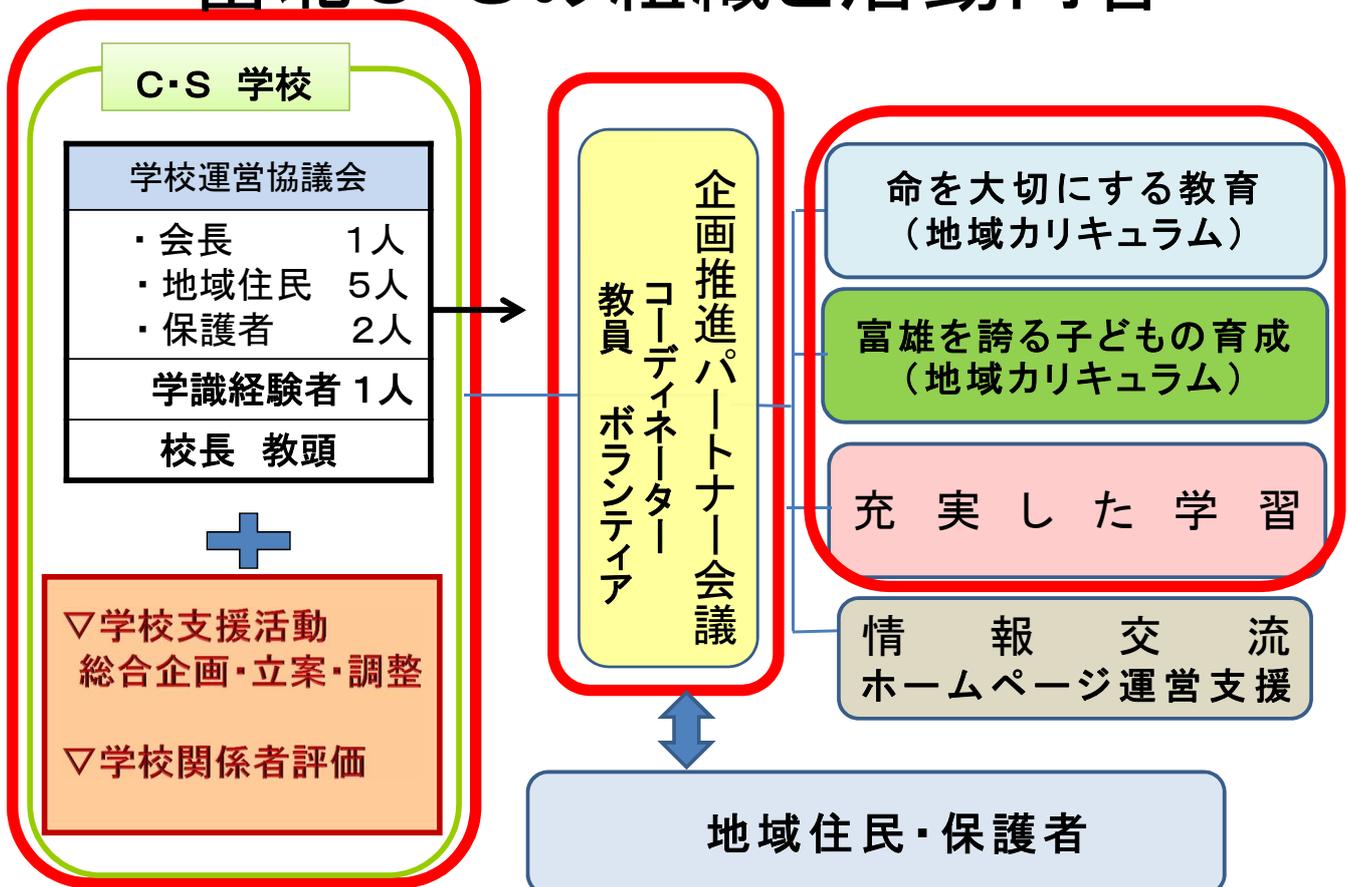
自治連合会→H19 奈良市へ地域重点要望
「学校運営協議会導入へ向けた検討委員会」の設置

富雄北小学校 学校運営協議会 基本理念

平成23年4月

- 「命を大切にする」富雄の教育の実践
- 地域・家庭・学校一体となった
より良い教育の実践
- 学校を支え、学校を核としたまちづくり

富北C・Sの組織と活動内容



活動の柱



命を大切にする教育

- ・ 集団登下校見守り活動
- ・ 安全教育・防災教育

集団登下校担当教員

自治連合
集団登下校推進
保護者会



富雄を誇る子どもの育成

- ・ ホタルと環境教育
- ・ 校区理解

教頭 学年担当

地域プロジェクト



充実した学習

- ・ 学校・学習支援
- ・ 体験学習

教務 学年担当

地域住民

命を大切にする教育



登校時



集団登下校見守り活動



付き添い方式



見守りリレー方式

命を大切にする教育



集団登下校で育つ力

リーダーの自覚
下級生へのいたわりの心
きまりを守る態度
感謝の心と素直なあいさつ

安全教育

富北子ども見守り隊

- ・安全紙芝居
- ・ペープサートの作成



命を大切にする教育

3年生 富北子ども安全宣言

- 行き帰り見守ってくださっている地域の方に大きな声であいさつします。
- 出かけるときには、いかのおすしー人前の約束を守り、交通安全にも気を付けます。
- みんなが楽しく過ごせるように、自分のことも友だちのことも大切にします。

「命を考える集会」

富北子ども安全宣言

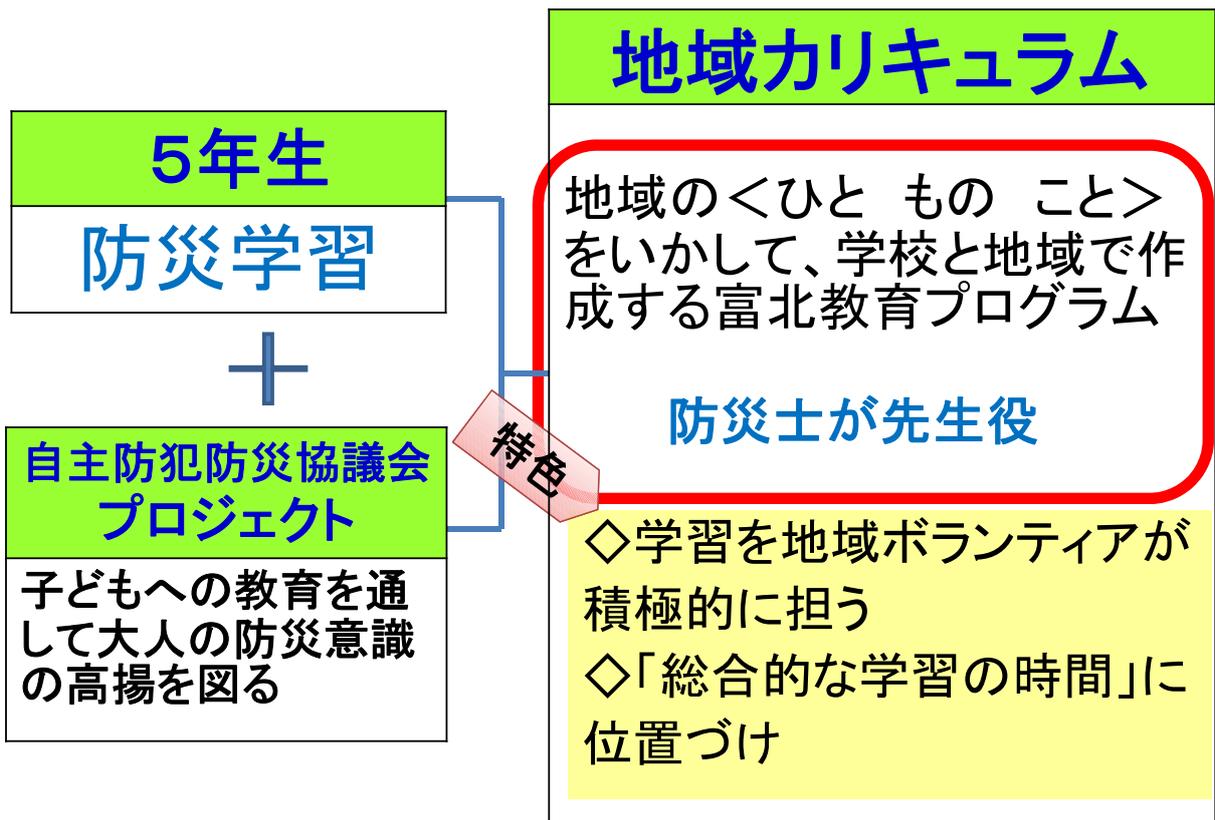
11月17日

命の授業

道徳・食育・安全教育



命を大切にする教育



命を大切にする教育



人と未来防災センター見学(5年生)

地区防災研修会
現地で合流

地域カリキュラム1

学んだものは
協力
信頼
思いやり



活動の柱



命を大切にする教育

- ・ 集団登下校見守り活動
- ・ 安全教育・防災教育

集団登下校担当教員

自治連合
集団登下校推進
保護者会



富雄を誇る子どもの育成

- ・ ホタルと環境教育
- ・ 校区理解

教頭 学年担当

地域プロジェクト



充実した学習

- ・ 学校・学習支援
- ・ 体験学習

教務 学年担当

地域住民

富雄を誇る子どもの育成

〈ホタルと環境教育〉

4年生

自然保護環境教育



ホタルプロジェクト

ホタルの住む自然を守ろう

ホタルのまちづくりと
里地保全活動

H23～

地域カリキュラム2

- ・ 里山学習
- ・ ホタル生息地での学習
- ・ 餌になるカワニナ観察

- ・ 解説者は
ホタルプロジェクトチーム
- ・ ホタル夜の観察会

富雄には ホタルが生きる
自然が残っている
守っている人がいる

守りたい、伝えたい
地域の取組



地域カリキュラム2



ホタル観賞会
光るホタルに感激

富雄を誇る子どもの育成

〈校区理解〉

3年生

校区調べ〈校外学習〉
地形、土地の様子
歴史・自然

とみお 校区プロジェクト

住む町、校区の魅力を
伝える

地域カリキュラム3

- 解説者は地域住民や
地元商店の皆さん
- 住民で教材の作成
- 校歌・校章の由来、意味
を学ぶ
- PTAとの協働
安全の旗説明など

育てたい
富雄を誇る子ども

ここが、子ども安全の家
だよ

地域カリキュラム3

ここが一番高い所、
校歌の生駒山が見えるよ



昔は牛を使って耕していたん
だよ



活動の柱



命を大切にする教育

- ・ 集団登下校見守り活動
- ・ 安全教育・防災教育

集団登下校担当教員

自治連合
集団登下校推進
保護者会



富雄を誇る子どもの育成

- ・ ホタルと環境教育
- ・ 校区理解

教頭 学年担当

地域プロジェクト



充実した学習

- ・ 学校・学習支援
- ・ 体験学習

教務 学年担当

地域住民

充実した学習支援



サツマイモ植え付け



家庭科運針



福祉体験

多くの大人の生き方に触れる きめ細かい指導 専門的な知識



昔遊び



ミニマトピザパン



お話の会

教員とC・S委員の連携 〈パートナー会議でつながる〉

教員との年度スタートの会 4月

教員との振り返りの会 2月



学年主任と



安全担当教員と

学習目標の共有

成果と課題の分析

C・Sへの教員の思い

助かっています

◇コミスクでないと出来ない体験を提供

地域カリキュラム	防災教育	5年
	ホタルと環境	4年
	校区しらべ	3年

(地域との連絡、日程調整、講師依頼)

さらに良い関係を進めるには

- ◆昨年度の課題をもとに打合せ
(成果・課題のデータ蓄積)
- ◆教師の役割の明確化

地域・保護者の声を聞く

学校ボランティア全体会



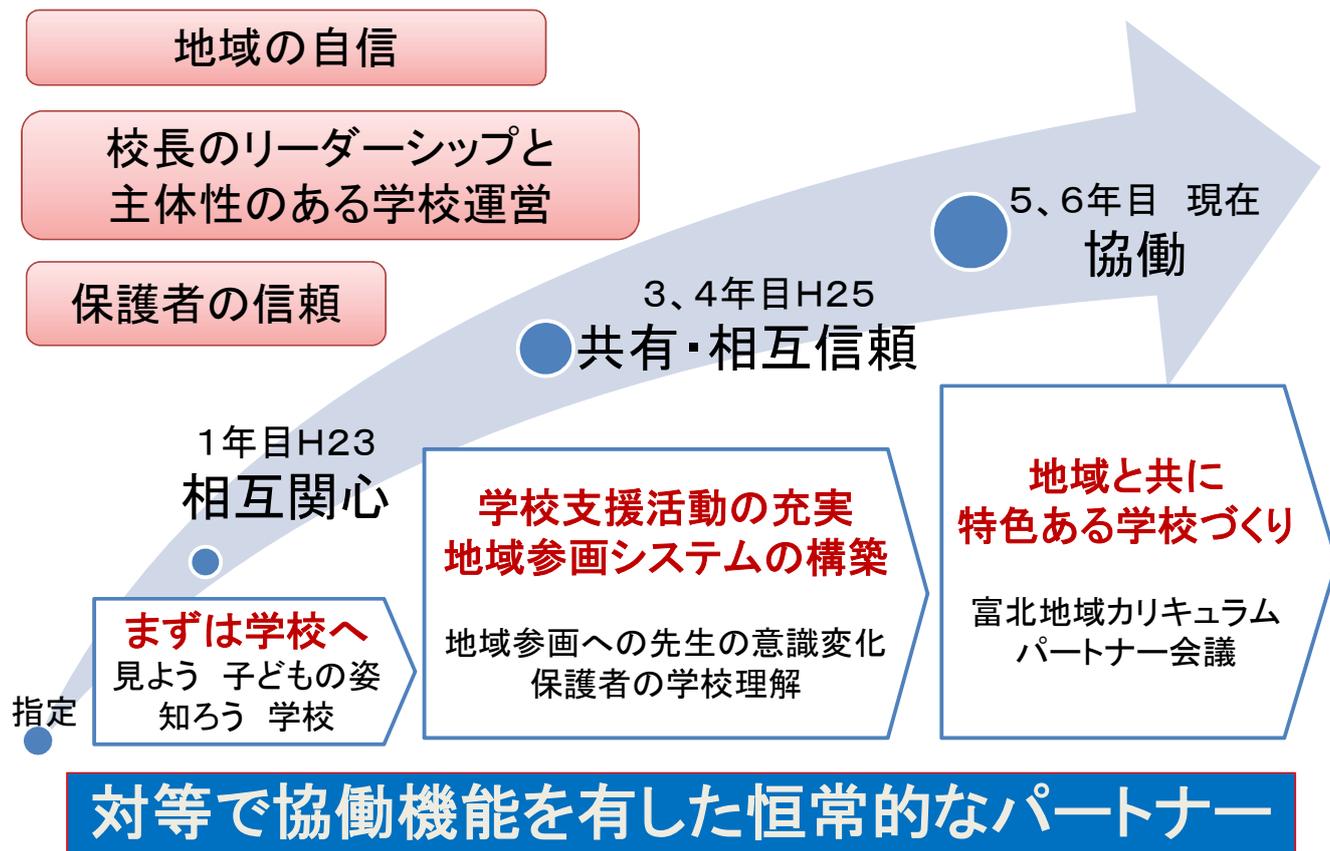
学年末
子どもの成長した姿
を通して
成果を共有する

目標を再確認



課題の解決 評価へ

信頼される富雄北小学校と学校運営協議会



富北コミュニティ・スクール

子どもの姿から学校が見える場

みんなで作る学び・育ちの場

顔見知りかふえる場

育て 子ども達 地域の担い手へ

ご清聴ありがとうございました



地域と共にある
信頼される富雄北小学校



富北コミュニティ・スクールだより

平成27年11月17日
～命を考える集会 報告～

平成27年12月8日 第45号
発行：奈良市立富雄北小学校 学校運営協議会
<http://www.naracity.ed.jp/tomiokita-e/>

富北 子ども安全宣言

1年生

- 自分からすすんで「おはよう」や「ありがとう」のあいさつをします。
- 命を守ってくれる人の話をきき、ルールを守って行動します。
- 防犯ブザーをいつも身につけ、「いかのおすし一人前」の約束を守ります。
- ぽかぽか言葉を増やして、にこにこ顔で、ともだちと仲良くすごします。

2年生

- 行き帰り見守ってくださっている地域の方に大きな声であいさつします。
- 出かけるときには、「いかのおすし一人前」の約束を守り、交通安全にも気を付けます。
- みんなが楽しく過ごせるように、自分のことも友だちのことも大切にします。

3年生

- 自分のことだけでなく、まわりの人の気持ちも考えて行動します。
- 地域の方や近所の方に顔を覚えてもらえるように、元気にあいさつをします。
- 出かけるときは誰とどこに行くかをお家の人に伝えます。

4年生

- いつも登下校の時に、見守ってくれている地域の人たちに、毎日自分からすすんであいさつをして感謝をします。
- 自分や友達を守るために「いかのおすし一人前」を心がけて生活します。
- いじめられている子や困っている子がいたら、見て見ぬふりをせず すぐ助けます。

5年生

- 高学年としての自覚をもって、協力し合い、何事も最後までやりとげます。
- 一人一人が思いやりの心もち、困っている友達をけっして見過ごさず、自分も相手も楽しく過ごせるようにします。
- いつも見守ってくださる地域の方への感謝の気持ちを忘れません。
- 一つだけの命をむだにせず、自分の命は自分で守ります。

6年生

- 地域の方々が 当たり前の日常をつくってくださることに感謝し、最高学年としての自覚をもって、全員が安全な登下校をできるようにしていきます。
- 一人一人が優しい気持ちもち、相手のいいところを見つけ、相手の気持ちを考え、いじめを絶対に許さないという強い信念を態度で示していきます。
- 「命に代わりはない」そのことを自覚し、友達を大切に、家族を大切に、自分を大切にすることをここに宣言します。

11月17日、全校児童が集まっておこなわれた“命を考える集会”に、学校運営協議会委員がPTA役員とともに参加しました。

今年初めての取り組みとなった“富北子ども安全宣言”。子どもたちは、命の大切さや、命を守ること、守られていることについて考え、自分たちの言葉で決意や意気込みを学年ごとに大きな声で発表しました。集会に参加した委員の感想と、学校側の説明をお伝えします。

はつらつとした言葉の中に子どもならではの決意が感じられた。



各学年の言葉で表現されていたと思います。その言葉の意味をしっかりと心に刻んで、毎日を過ごしてほしい。

守られる側から 行動する側へ
子どもたちが新しい一歩に踏み出したのは素晴らしいこと。
11年間の積み重ねがあるからこそ、今回できたことだと思う。

子どもたちには元気に学校に来て、勉強したり遊んだりしてほしいとあらためて思います。

自分の学年だけでなく、すべての宣言を聞くことができたのは、子どもたちにとって良いことだと思う。
集団登下校もそうだが、縦のつながりをもつこと、上級生を手本にして育っていくことは大切なことだ。

せっかくの宣言文なので、目につくところに貼ったり、みんなで声に出して読んだり、日々忘れずに、意識できるような取り組みを繰り返してはどうか。

富雄北小学校では、毎年11月17日には“命を考える集会”“命の授業”をおこなってきましたが、この宣言文は“持続する活動”へと一歩ふみ出したものです。
一年間かけて取り組み、毎年子どもたちの現状にそったものに修正を加えていきます。(学校)



宣言したことを行動に移すための、今後の具体的な取り組みはあるのでしょうか？(質問)
→ 何かに新たに取り組むということではありません。学校生活や集団登下校の中で、子どもたちがすでに実行していること、保護者や教職員が日々指導していることが宣言文になっています。
言葉であらわすことで、自分たちのやるべきこと、心がけるべきことがはっきりしたと思います。(学校回答)



子どもたちは大人を見て育っていく。
大人自身の行動についても考えていく必要があると感じました。

子どもたちの宣言を受けて、
・地域は、どう動いていくのか？
・保護者は何ができるのか？
・学校運営協議会がサポートできることは何か？
大人も一緒に考えていきましょう。



命を大切にする富雄の教育の実践
地域・保護者・学校が一体となった教育の実践
学校を支え、学校を核としたまちづくり
富雄北小学校学校運営協議会
(富北コミュニティ・スクール)



富北コミュニティ・スクールだより

27年度のまとめ

～みなさんの感想より～

平成28年3月15日 第51号

発行：奈良市立富雄北小学校 学校運営協議会

<http://www.naracity.ed.jp/tomiokita-e/>

コミュニティ・スクール指定より5年が経ち、今年度は地域住民・保護者のべ380人の方にご協力をしていただき、学習支援等の活動を行ってまいりました。おかげ様で子どもたちは、より深い内容を学んだり、心に残る体験をしたり、きめ細かい目配りの中で学校生活を送ったりすることができました。

今後地域の方、保護者、先生方、皆さんにとって「力を合わせて良かった！」「子どもたち、生き生きしているね！」と実感できる活動の場でありたいと願っています。

今年度のボランティア意見交流会に寄せられた感想を、一部ですが紹介します。



家庭でもできることを皆でしたり家庭ではできないことを経験したり、親子で学べる良い場だと感謝しています。

大人がボランティアとして参加することで子どもたちが少しでも多くの豊かな経験をできるのであれば、とても良いことだと思います。今後も参加したい。

みんなでつくる 学びの場

話を聞いていても「？」という顔をしている子どもも、実際にやってみれば納得する。体験することは大切なことだと思います。

先生や親以外の大人と接し、学ぶという経験は、子どもたちにとって貴重な体験だと思います。

いろいろな世代の方から文化を学んだり交流したりすることは、素晴らしい経験だと思います。



参観の時とは違う子どもたちの姿を見ることができて、新鮮でした。

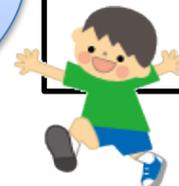
子どもたちの嬉しそうな顔を見るのが参加しているの何よりのご褒美です。元気をもらっています。

子どもが一生懸命取り組んでいる姿を見ると応援したくなり、できた時にはこちらが嬉しくなりました。そんな瞬間に立ち会えたことが喜びです。

子どもの姿から 学校が見える

我が子以外の子どもたちとふれ合うことで、普段見ることのできない姿などが見られて楽しかったです。

日中の子どもたちの姿を通して、学校の雰囲気も感じることができ、良い経験になりました。



学年の違う方、クラスの違う方（保護者）との交流は、新たな関係ができたり、また違った情報を得られたり、自分自身の世界も広がりました。



子どもたちとのふれ合いも楽しかったのですが、地域の方に昔の話を聞くことができたのも楽しかったです。

大人にとっても 学び、交流の場



一緒にゴミ拾いしたら「大人はタバコ捨てんといて！」と怒られた。大人は子どもの手本。マナーの向上を目指さなければと思う。

日頃はいろいろな人にサポートしてもらっているのに、98歳の自分がボランティアできるのは嬉しい。

子どもたちに説明をするからには、「自分たちも勉強しなくては！」と思い、集まって話し合うなど、わかりやすく伝える努力をしています。



福祉体験で学習したことを活かして、他人のことを思いやることのできる心、声をかける勇気を持ってほしい。

また、自分自身も“困っている人に手を差し伸べられる人”でありたいと思っています。

防災に関しては、大人に言うより子どもを教育するのが一番効果的。

子どもたちが成長した時に、地域にとってもより大きな力になると思う。

学校で学んだことを、ぜひ家庭での生活にもとり入れたり、活かしたりしてほしい。

子どもたちに 願いをこめて



戦時中のこと、昔の暮らしのこと、子どもたちに伝えていけたらいいな…と思います。

学校より

子どもは夢をもち、夢をかなえて大きくなっていきます。しかし、学校の教師だけでは残念ながら全てを教えることはできません。その教師では手の届かないところを多くの方に補ってもらうことで、夢をかなえることができるのです。

コミュニティ・スクールの活動は、子どもたちが皆さんと出会い、夢をかなえる場です。

立場は様々ではありますが、みなさん一人一人が「自分が子どもを育てているんだ！」と思って胸を張ってください。ますます素晴らしい協働の場にしていきたいと思います！

教頭 大西規弘

ご協力ありがとうございました。これからも、皆さんの“子どもに対する願い”、“学校に対する願い”を実現できるように、地域・保護者・学校が一体となって教育に取り組んでいきましょう。今後ともよろしくお願いたします！！

命を大切にする富雄の教育の実践
地域・保護者・学校が一体となった教育の実践
学校を支え、学校を核としたまちづくり
富雄北小学校学校運営協議会
(富北コミュニティ・スクール)